おわりに

小田原合戦での、豊臣軍と北条軍をあわせた軍勢は、のちの関ヶ原の戦いでの東西両軍の軍勢を上回る数でした。そして、戦った地域の広さや城の数などを考えても、それまでにない一大決戦でした。その大きな戦のあと、北条氏が小田原城をあけ渡すことによって戦国時代は終わり、豊臣秀吉による全国統一が完成しました。戦国時代のはじまりは、早雲（伊勢宗瑞）が伊豆に攻め入ったことであると言われていますので、北条氏はこの戦国時代の最初と最後に関わっていたのですが、戦国時代といえば、上杉謙信や武田信玄、毛利元就などの武将たちが人々の印象にあり、北条氏はあまり知られていません。

しかし、当時の北条氏は、みのり豊かな関東地方を支配した戦国時代の有力な武将でした。また、一族の間の結びつきの強さや、領民から得ていた信頼の高さは、戦国時代の大名の中でも比べるもののないほどでした。

北条氏が関東地方を治めた百年は、人々が安心して生活が送れる国を、関東につ

くることをめざした時代でした。領民のことを第一に考えた初代の早雲の思いは、百年にわたり引きつがれていきました。小田原の町全体を守るために、大外郭（大きな堀）を築いたことや、町の人々を戦から守るために、小田原城をあけ渡したことなどにも、早雲の思いやめざした国づくりの姿が表れています。

北条氏は、だれもが幸せになる国づくりを、武力だけではなく、優れた政治を行うことで、実現しようとしていました。今の小田原に生きる私たちも、早雲に始まる北条五代の武将たちの考えや生き方から、多くを学ぶことができるでしょう。

北条五代の墓